RapidMiner Studio ver.10.2

ー RapidMiner Studio ver.10.2の変更点ピックアップ ー

KSK ANALYTICS

RAPIDMINER
An ALTAIR Company

はじめに

RapidMiner Ver10.2では多くの変更点があります。
ここでは、その中でも特に大きな変更点をピックアップしました。
(本資料ではStudioのみに限定しています。AI Hubの変更内容は含んでいません。)

目次

1. アルテアライセンスで動作するようになりました
2. RapidMiner Studioの日本語化
3. Interactive Analysisの追加
4. モデルの保存形式が変わりました
5. Snowflakeと簡単に接続できるようになりました
6. Google Driveと接続できるようになりました
7. SMSなどを送信できるようになりました
8. Windowing系のオペレータに前処理モデルが追加されました

アルテアライセンスで動作するようになりました

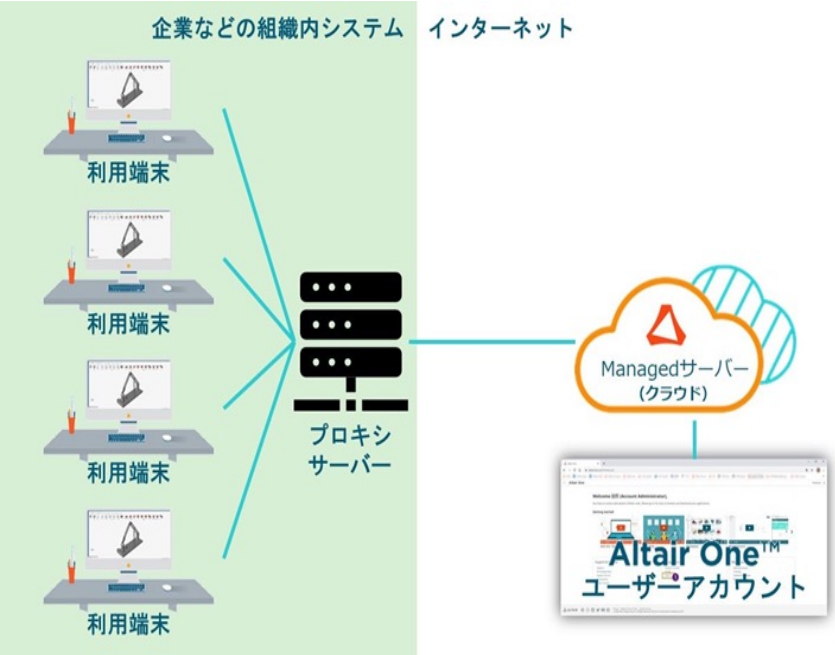
Ver10.1より、RapidMinerはアルテアライセンスで動作するようになりました。
製品ごとに以下のユニットを消費します。

- **RapidMiner Studio ー 20 Units** (8 CPUコアまで)
  - CPUコアを追加するごとに、さらに 5 Unitsずつ消費します
  - 後述のInteractive Analysisを使用するときは、さらに 10 Units必要です

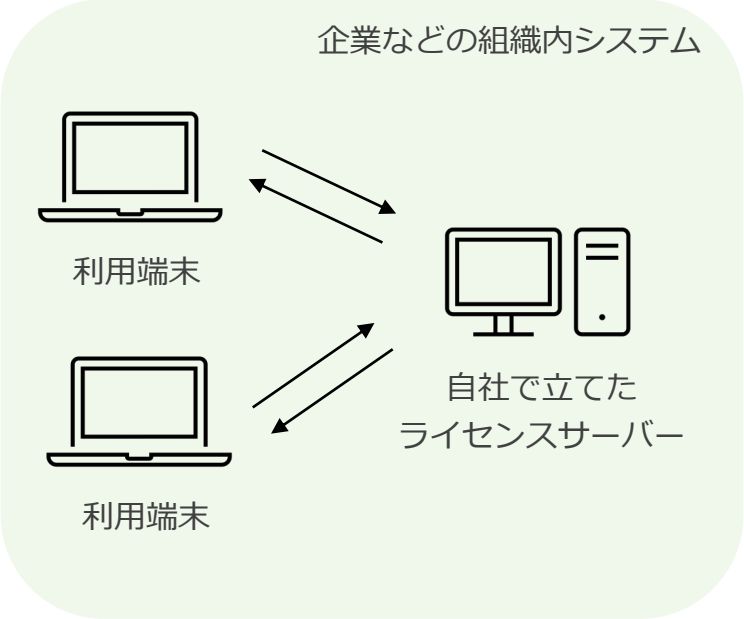
- **RapidMiner AI Hub ー 5 Units / per core**
  - 使用マシンのコア数に応じてユニットを消費します

アルテアライセンスで動作するようになりました

ライセンスを利用するには、ライセンスサーバーと接続させる必要があります。
アルテア社のManagedサーバーを利用するか、自社で立てるかの2パターンあります。
詳細はそれぞれ別の資料で説明していますので、各資料をご覧ください。



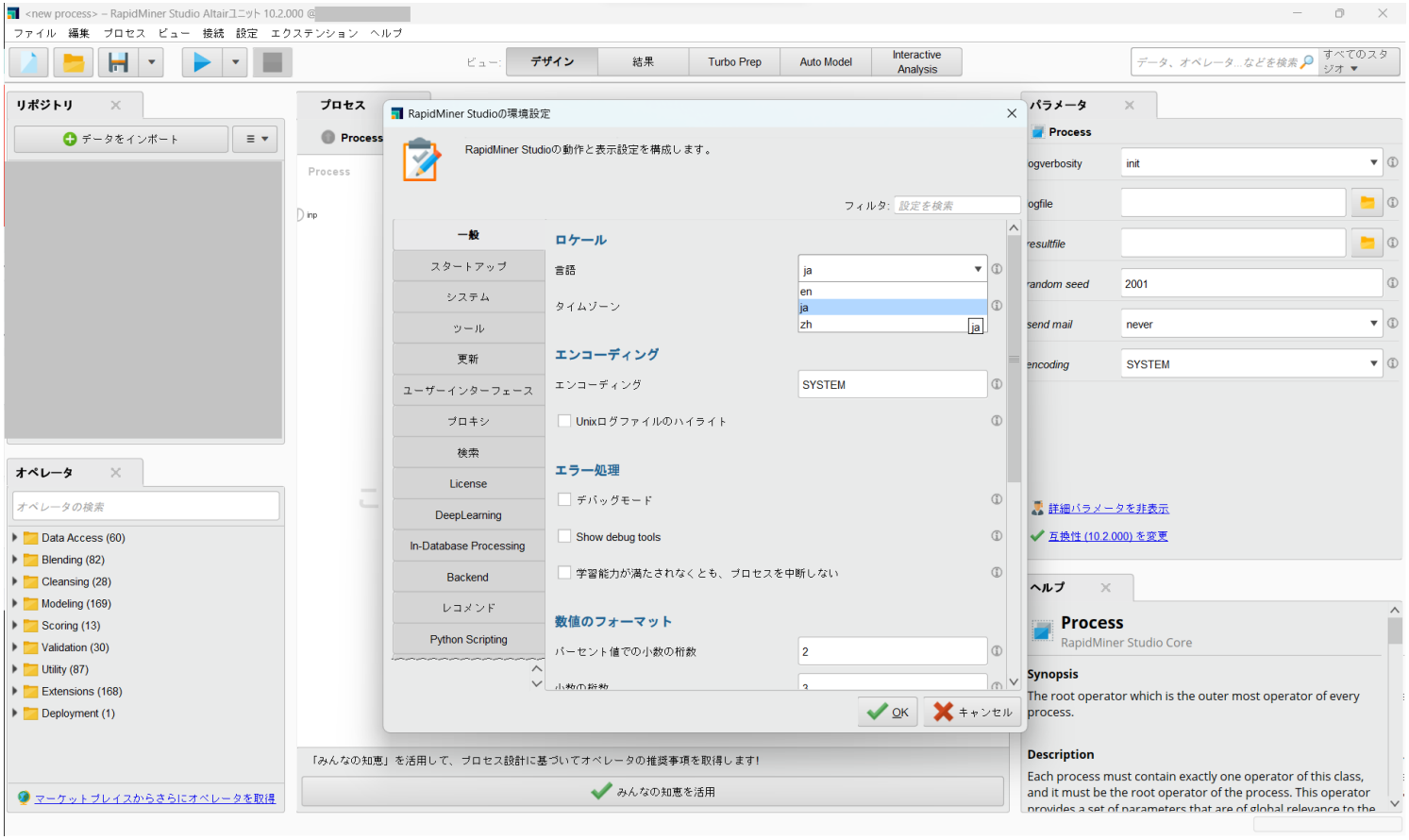
Managedライセンス



オンプレミス

RapidMiner Studioの日本語化

Ver10.2より、ソフトをダウンロードしてすぐに日本語を利用できるようになりました。
(以前は日本語化ファイルを自身でダウンロードしてフォルダ内に配置する必要がありました。)
日本語を使用するには、設定 > 環境設定 > 一般タブ より、言語を”ja”に設定してください。



Interactive Analysisの追加

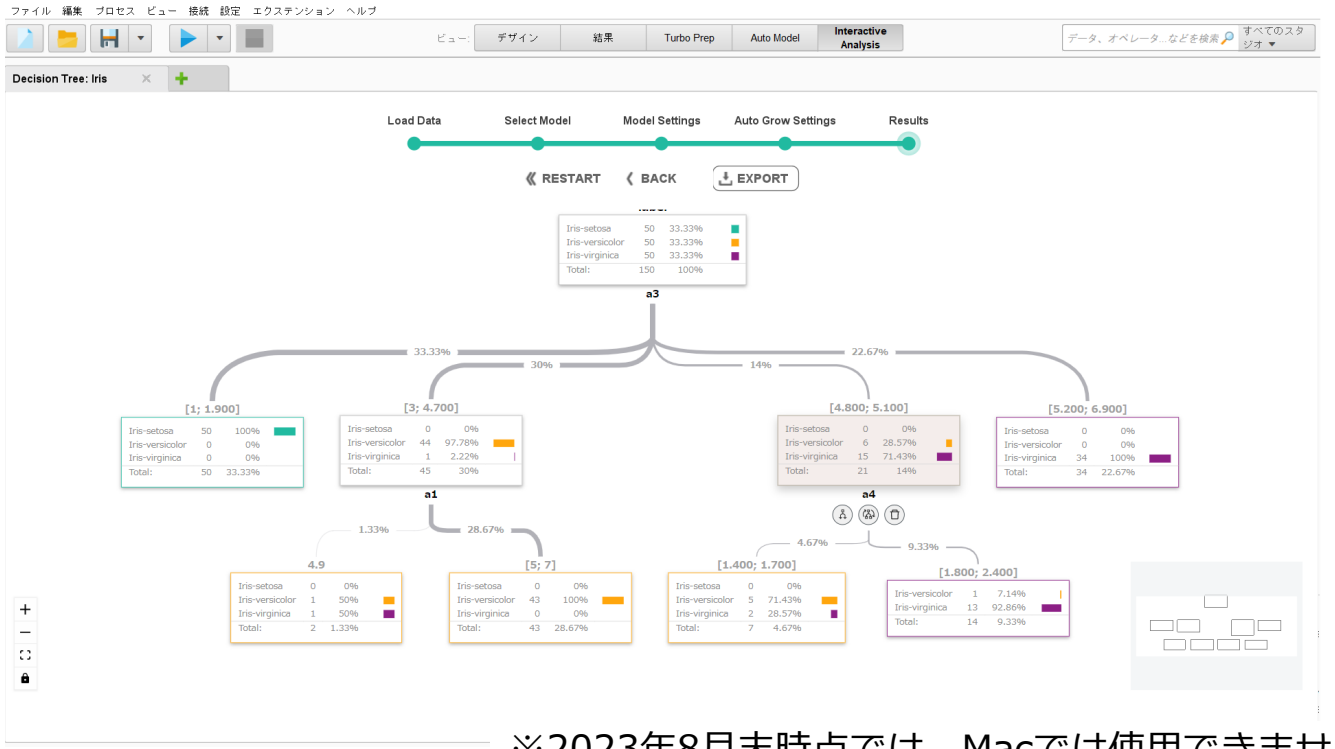
RapidMiner Studioに、新たにInteractive Analysisが追加されました。

この機能では、自身の好きなように決定木を成長させたり、削除することができます。

以下の動画でその様子を見ることが可能ですので、良ければご参照ください。

https://altair.com/resource/introduction-to-altair-rapidminer-studio-and-altair-ai-hub-10-2

※Interactive Analysisを使用するには、さらに**10 Units**必要です。

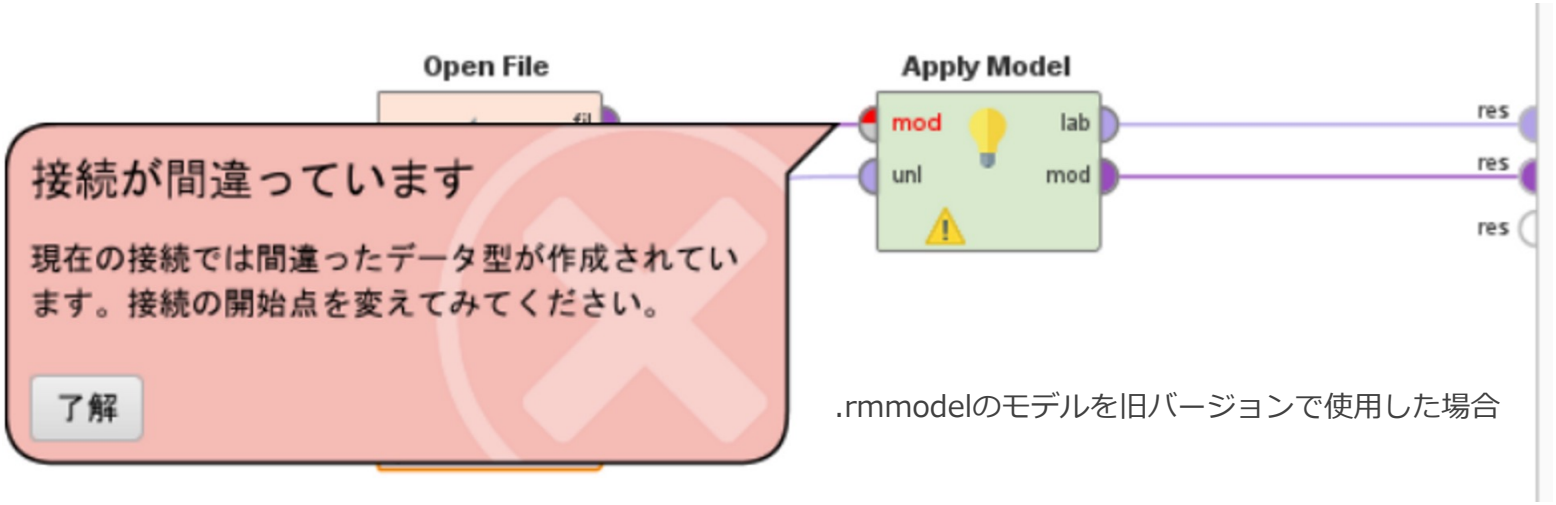


※2023年8月末時点では、Macでは使用できません。

モデルの保存形式が変わりました

Ver10.1よりモデルの保存形式が変わり、より将来性のあるJSON形式で保存するようになりました。
(モデルの拡張子が、.iooから.rmmodelに変わっています。)

Ver10.1で作成したモデルを10.1で使用する分には問題ありませんが、
Ver10.0などの旧バージョンで使用した場合、モデルがうまく認識されず下記のエラーになります。



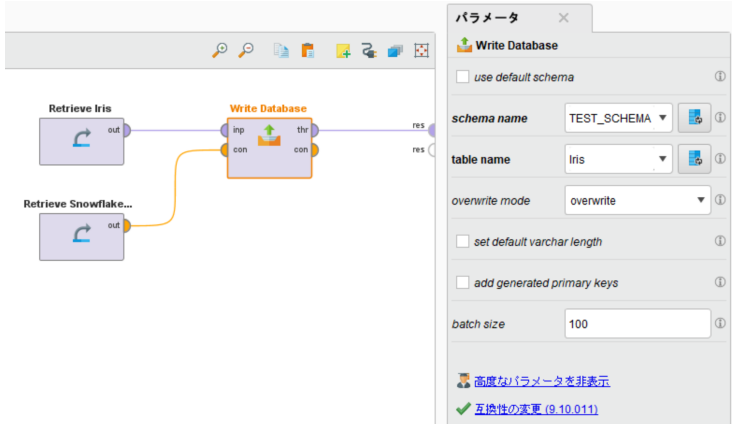
.rmmodelのモデルを旧バージョンで使用した場合

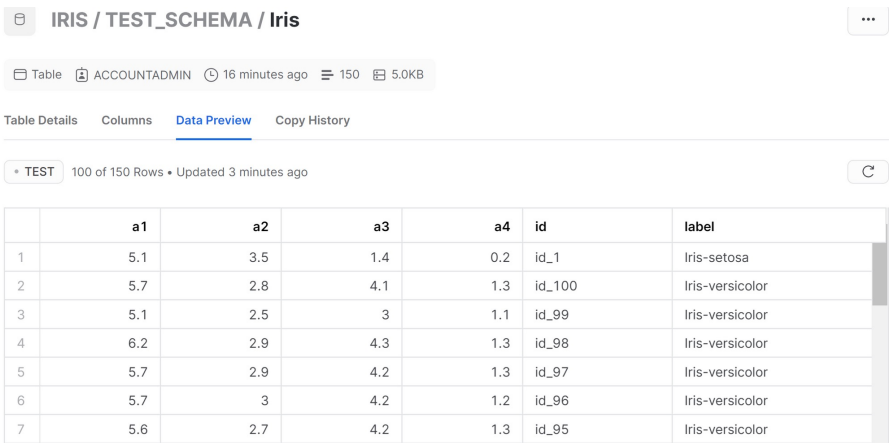
新モデルを利用する場合は、必ずver10.1以上のバージョンで利用するようにしてください。
旧モデルをver10.1で使用する分には問題ありません。

Snowflakeと簡単に接続できるようになりました

Ver10より、SnowflakeのJDBCドライバがバンドルされました。
(旧バージョンでもSnowflakeと接続できましたが、
ドライバを自身でダウンロードする必要がありました。)

今後は自身でダウンロードせずとも、最初からSnowflakeと接続させることができます。
詳細は以下の資料をご覧ください。
[Snowflakeとの接続]

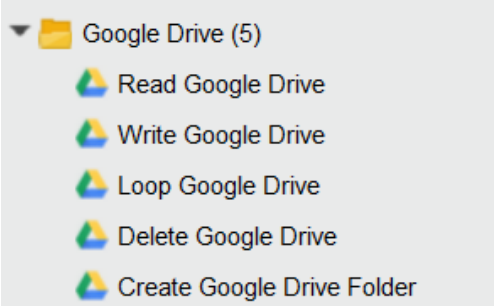


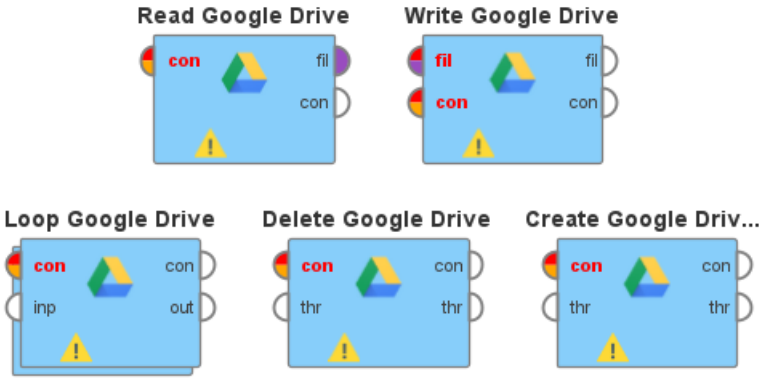


	a1	a2	a3	a4	id	label
1	5.1	3.5	1.4	0.2	id_1	Iris-setosa
2	5.7	2.8	4.1	1.3	id_100	Iris-versicolor
3	5.1	2.5	3	1.1	id_99	Iris-versicolor
4	6.2	2.9	4.3	1.3	id_98	Iris-versicolor
5	5.7	2.9	4.2	1.3	id_97	Iris-versicolor
6	5.7	3	4.2	1.2	id_96	Iris-versicolor
7	5.6	2.7	4.2	1.3	id_95	Iris-versicolor

Google Driveと接続できるようになりました

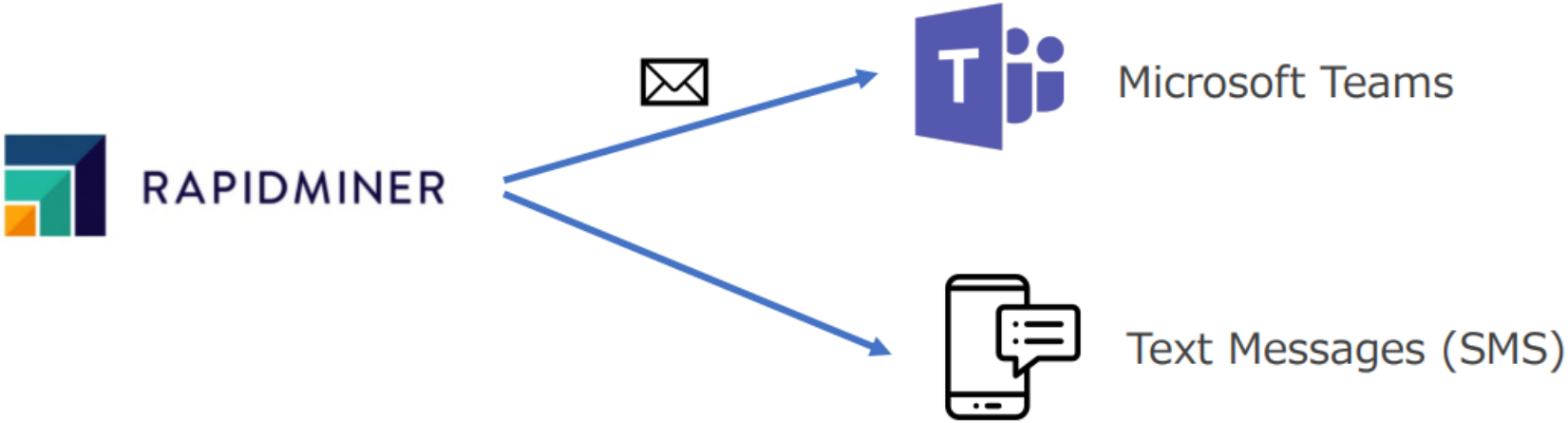
Ver10より、Google Driveと接続できるようになりました。
新たにGoogle Driveとデータをやり取りするオペレータが追加され、
これらを用いてGoogle Driveからデータを読み込んだり、書き込んだりすることができます。





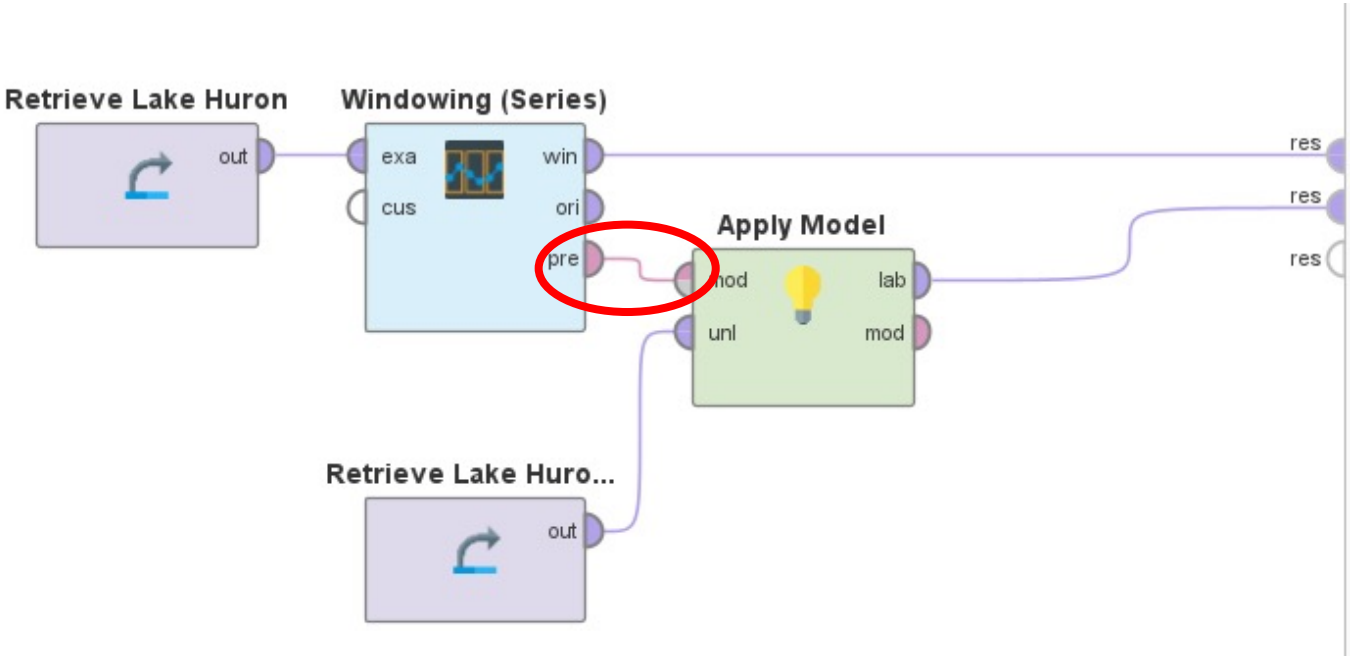
SMSなどを送信できるようになりました

RapidMinerからMicrosoft TeamsやSMSにメッセージを送信できるようになりました。
これには、Communicationエクステンションを使用します。
以下の資料で詳細に説明しているので、以下もご参照ください。
[RapidMinerからメッセージ送信]



Windowing系のオペレータに前処理モデルが追加されました

Windowing系のオペレータに前処理モデルが追加されました。
これにより、今後は同じ条件でWindowingを行いたい場合は、
前処理モデルを使用してWindowingを行うことができます。
(前処理モデルは、通常と同じようにApply ModelやGroup Modelオペレータと使用します。)



おわりに

これまで見てきたように、Ver10.2では多くの変更が行われました。
特にアルテアライセンスと繋がったことが大きいです。

ここで取り上げたもの以外にも変更点はございますので、詳細はリリースノートもご覧ください。
https://docs.rapidminer.com/latest/studio/releases/